

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展の中、生涯にわたり学習する基盤を培い、個性を生かしながら主体的に課題を解決出来る人間の育成をめざす。

- 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
- 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人間の育成をめざす。
- 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にす意識の醸成に努める。

2 中期的目標

下記の1～3の目標達成を図ることにより、学校満足度90%以上をめざす。

- 確かな学力の育成と思考力・判断力・表現力を高める機会の充実
 - 確かな学力育成のため、「授業アンケート」等を活用して、指導と評価を一体化した学習指導、授業力向上のための取組みを組織的に行う。
⇒ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握したうえで、指導と評価の一体化した学習指導に努める。
⇒学校教育自己診断結果や授業アンケート結果の分析、授業振り返りシートの活用などにより、全教員が授業力向上にむけた取組みを行う。
⇒「授業力向上委員会（仮称）」により、指導と評価を一体化した学習指導や授業力向上のための取組みの情報共有・研究・発信を行う。
 - 生涯にわたり学習し続け、それぞれの個性をさらに伸ばすことができるよう、資格取得を奨励し、また、読書活動を推進する。
⇒進展する国際化や情報化に対応する基礎的素養を身につけさせるため実用英語技能検定試験やTOEFL・TOEIC、情報検定等の奨励・実施を行う。
⇒「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」を踏まえ、読書環境の充実を図る。
- 夢と志を描き、自らの力で実現できる生徒の育成、社会の形成に主体的に参加し、社会人として自立・貢献できる人間の育成
 - “本物”や“最先端”に触れさせることにより、知識基盤社会・グローバル社会において、自分の将来の可能性について考えさせる。
⇒府教育委員会や関係機関の取組みを活用し、エリア活動等において、自分の個性を生かした将来の進路を考えさせる。
⇒各自の進路希望の実現に向け、キャリア学習や進学講習に積極的に取り組ませる体制を充実させる。（3年後、希望進路実現率90%をめざす）
 - 積極性や協調性、責任感を高めるため、HRや委員会・生徒会、学校行事や部活動等への参加を一層奨励し、生徒の自主的活動を充実させる。
⇒自主的・積極的に社会に参加する意識を醸成するため、自主的活動の意味や意義を生徒に考えさせ、自主的活動への参加を奨励する。
 - 進路実現をめざし、社会で自立・貢献できる人間となるよう、学校組織全体として取り組む。
⇒基本的な生活習慣やルール・マナー指導について、社会に通用する習慣・意識を持たせるため、学年、進路指導部、生徒指導部が一体となり取り組む
⇒規律ある授業環境について、学年、教科、教務部、生徒指導部の連携により、学習保障の観点も踏まえながら、一体となり取り組む
- 安全で安心な学校づくりと自他を大切にす意識の醸成
 - 地域のニーズを踏まえ、地域の文化や環境・安全に貢献する活動などに取り組む。
⇒地域の文化的・芸術的行事や環境美化行事などに積極的に参加し、高校生として可能な貢献に努めさせる。
⇒関係機関等とも連携した交通ルール・マナー指導を推進し、交通事故の未然防止に努める。
⇒地震や洪水に係る防災教育を推進するとともに、災害発生時における磯島校区コミュニティー協議会との一層の連携を図る。
 - 人権教育により自他を大切にす意識を醸成するとともに、生徒一人ひとりの状況に適切に対応した指導を行う。
⇒これまで行ってきた人権教育を踏まえて、インターネットや携帯電話などの新たな状況にも対応した高校3年間を通じた人権教育を推進する。
⇒いじめやセクハラなどについて、生徒アンケートや「高校生活支援カード」等により生徒の意識・実態を把握し、適切な指導・対応を行う。
 - 特別支援教育については、高等学校支援教育力充実事業のサポート校として、就労に向けたノウハウの提供や具体的な支援方策を助言していく。
⇒自立支援コースを含む特別支援教育体制及びこれまでの事例に基づき、地域のサポート校としての取組みを充実させる。
⇒特別支援教育の取組みや成果を基に、教育活動の様々な場面において「共に学び共に育つ」教育活動を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>[生徒]</p> <p>20項目中16項目で肯定率が上昇した。肯定率75%以上の項目は、「学校生活は充実」(89)、「この学校に来てよかった」(87)、「進路実現に関する指導は適切」(84)、「行事やHRには皆が楽しく参加」(83)、「生徒たちの関係はとてもよい」(81)、「他の学校にない特色がある」(80)、「人権の大切さについて学ぶ機会」(80)、「各教科から必要な課題や宿題が与えられている」(80)、「授業以外でも学習機会を提供」(78)、「命の大切さについて学ぶ機会」(77)、「いじめなどへの真剣な対応」(76)、「悩みや相談への丁寧な対応」(75)などであった。4ポイント以上上昇したのは「他の学校にない特色がある」(+5.2)、「この学校に来てよかった」(+4.7)、「先生は信頼できる」(+4.3)「少人数・習熟度別授業の充実感」(+7)、「進路実現に関する指導は適切」(+6.8)、「悩みや相談への丁寧な対応」(+5)、「行事やHRには皆が楽しく参加」(+7.2)、「命の大切さについて学ぶ機会」(+9.2)、「人権の大切さについて学ぶ機会」(+8.7)など9項目であった。肯定率が6割以下の低い項目は「授業以外の学習時間は1日1時間以上」(29)、「部活動には積極的に参加」(47)、「学校の施設・設備は充実」(59)など3項目で、下降したのは「授業以外の学習時間は1日1時間以上」(-2.2)、「部活動には積極的に参加」(-1.5)、「各教科から必要な課題や宿題が与えられている」(-1.1)、「先生の指導は納得できる」(-0.4)の4項目であった。生徒は楽しく学校生活を送っているが、学習習慣の定着や部活動への参加に依然として課題がある。</p> <p>[保護者]</p> <p>新設項目を除く16項目中、約半分の7項目で肯定率が上昇した。肯定率75%以上の項目は「保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている」</p>	<p>[第1回] 7月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しくわかりやすい授業を実践するためには、教員の授業力向上が必要である。 2学期は遅刻が増える時期なので、生徒指導をさらに頑張ってほしい。 部活動の加入率を高める必要がある。 家庭での学習時間が少ない。進路を決められるように進路指導を一層充実させてほしい。 人権の観点からお互いを認め合うことを大切にしてほしい。 自立支援コースの定員を増やしてほしい。 <p>[第2回] 11月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学の感想として、総合的には工夫されている授業が多かったが、授業規律を大切にして、教科の専門性を活かしてほしい。 教職員全体の研究授業が必要である。 授業アンケートの質問項目の内容を教えてほしい。 遅刻が減少しているのは、生徒指導の成果が出ている証拠である。生徒はおとなしくなった。 総合学科への改編に向けて、教職員全体で頑張ってほしい。 <p>[第3回] 3月7日</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度学校教育自己診断に関して、生徒アンケート、保護者アンケートともに質問項目の多くが75%以上の肯定的評価である。課題としては、家庭学習の充実、保護者の提出率が低いことがあげられる。 平成29年度学校経営計画及び学校評価(案)について、教員の授業力向上、3年間トータルのキャリア教育、部活動の活性化、地域連携の継続、支援教育のさらなる充実等が課題である。 平成30年度学校経営計画及び学校評価(案)について、確かな学力育成のための教員の授業力向上、キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実、社会人基礎力育成のた

府立枚方なぎさ高等学校

(92)、「保護者に対する事務室の対応は親切、丁寧」(90)、「教育情報についての公開・提供の努力をしている」(89)、「家庭では生徒とよく会話をすする」(88)、「生徒は学校へ行くのを楽しみにしている」(87)、「特色ある教育活動に取り組んでいる」(85)、「人権尊重の教育を積極的に行っている」(85)、「家庭への連絡は適切に行っている」(85)、「進路実現の取組みをしっかりとやっている」(83)、「生活指導をしっかりとやっている」(82)、「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(81)、「生徒たちは部活動や行事などの課外活動に積極的である」(77)、「カウンセリングなどの教育相談が充実している」(76)、「各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている」(75)の14項目である。肯定率が5割以下の低い項目は「生徒たちは家庭学習に十分な時間を使っている」(34)である。大きく上昇したのは「カウンセリングなどの教育相談が充実している」(+3p)、下降したのは「生徒たちは家庭学習に十分な時間を使っている」(-4.3p)、「生徒たちはしっかりと授業を受けているようだ」(-3.9p)、「授業は楽しくてわかりやすいようだ」(-3.6p)などである。保護者はおおむね学校の取組に信頼を寄せているようであるが、楽しくてわかりやすい授業実践など、教員の授業力の向上に課題がある。また保護者の提出率が38.4%と低く、今後は保護者への呼びかけ等を強化して、提出率を上げることも大きな課題である。

[教職員]

20項目中、肯定率90%以上が7項目、80%以上が4項目、70%以上が6項目と非常に肯定感が高い。その中で、肯定率が70%未満なのは、「部活動の活性化について工夫している」47.4%、「授業で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている」56.1%、「授業で必要な量の宿題を課している」64.9%の3項目である。部活動の活性化や家庭学習をさせるための工夫などに課題がある。

めの生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長、高校3年間を通した人権教育の充実、魅力ある総合学科づくりが5本柱である。

- ・授業力向上について、「わかりやすく魅力ある授業」を実践するために、教員全体で「めざす授業」について考えることが大切である。授業力向上委員会の設置やパッケージ研修の実施など、ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・進路指導について、進学実績を上げるために、新しいガイダンスルームを有効活用してほしい。授業の工夫や進学講習の見直しなど、キャリア教育に力を入れてほしい。
- ・生徒指導について、遅刻数の減少は良い傾向。生徒指導の成果が出ている。学年主任会議の設置などで、情報共有をしっかりと行うことが大切である。
- ・部活動の活性化、ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・人権教育・支援教育の充実について、ユニバーサルデザインのわかりやすい授業実践に期待する。
- ・教職員研修を有効に活用してほしい。
- ・総合学科づくりについて、広報活動に力を入れてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と思考力等を高める機会の充実	(1) 確かな学力の育成のための教員の授業力の向上 (2) 生涯にわたり学習し続けられる基盤の整備	(1) ア ユニバーサルデザインの推進…先進事例に学び、各授業で共通して配慮すべき事項をまとめ具体化する イ アクティブラーニングの推進…生徒が主体的に参加する授業を推進、研究授業で教員が相互研鑽する。「指導と評価の一体化」に取り組む ウ 多様性のカリキュラムへの反映を研究…生徒のより主体的な授業参加をめざし、選択科目のあり方を見直す研修を行う (2) ア 英検、P検、漢検等各種検定の受験、資格取得の推進 イ 図書館の利用を促進し、読書活動を推進する ウ 3年間通した進路プログラム…進路行事の効果的な実施、履修科目の選択ともすり合わせ、進路実現のための3年間通したプログラムを作る	(1)ア～ウ ・研究授業、公開授業の実施回数増 ・「 $\textcircled{学}$ いろいろと工夫されている授業が多い」3ポイントアップ ・「 $\textcircled{学}$ 楽しくてわかりやすい授業が多い」3ポイントアップ ・「 $\textcircled{普}$ 専門的な知識／自分で考える力／自分を表現する力／プレゼンテーション能力／コミュニケーション力／物事に対する理解力・物事を調べる力」の各項目の3ポイントアップ (2) ア・実施回数人数増 ・資格取得者数5%増 ・「 $\textcircled{学}$ 学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」3ポイントアップ イ 新たな取組み開始し利用者増 ウ「 $\textcircled{学}$ 進路実現に関する指導は適切に行われている」5ポイントアップ	$\textcircled{学}$ = 生徒向け学校教育自己診断 $\textcircled{普}$ = 普総選アンケート (1) ア 公開授業は6月、11月に実施し、11月は授業公開月間とした。11月に大教大教授来校による研究授業を行った。研究授業回数は4回、公開授業・授業観察回数は70回(H28 研究授業回数4回・授業観察回数55回)($\textcircled{◎}$) ・「 $\textcircled{学}$ 授業の工夫」は70.6%(0.3%増)(Δ)、 「 $\textcircled{学}$ 楽しくてわかりやすい授業」は64.6%(3%増)($\textcircled{○}$)、と一定の成果が確認できる。 イ「 $\textcircled{普}$ プレゼンテーション能力/物事に対する理解力/物事を調べる力」は増加したが、「 $\textcircled{普}$ 専門的な知識/自分で考える力/自分を表現する力/コミュニケーション力」はやや減少した。 (Δ) (2) ア「 $\textcircled{学}$ 授業以外の学習時間」は28.9%(2.2%減)、「 $\textcircled{学}$ 授業以外の学習機会」は77.8(2.8%増)。実用英語技能検定の受験者数は64名(H28 96名)英検全体の合格者数は2級の合格者は増加したが、合格者数は減少した。(Δ) イ 図書館だよりの発行5回(H28 3回)、古書を購入し蔵書が充実($\textcircled{◎}$) ウ「 $\textcircled{学}$ 進路実現に関する指導は適切」は6.8%増加の84.3%(H28 77.5%)($\textcircled{◎}$) ●「確かな学力」をつけるために、教員の授業力のさらなる向上を図っていく必要がある。
2 社会人として自立し、社会に貢献する人間の育成	(1) 進路実現に向けた活動の充実 (2) 学校行事や部活動への参加奨励 (3) 進路実現をめざし、社会人育成に学校組織全体で取り組む	(1) 授業やLC(総合的な学習の時間)でさまざまな体験活動を展開…校外活動、演習・実験などを積極的に取り入れる (2) 部加入率向上と生徒会主催活動の充実…部活動加入率を上げ、生徒会活動の充実を図る (3) ア 基本的な生活習慣とマナーの確立…特に遅刻を減らすこと、自転車等の交通マナー指導、授業規律の向上を重点に取り組む イ 進路希望別指導や進学講習を積極的に行い、進路実現に向けて各生徒の持てる力を最大限に伸ばす	(1) ・「 $\textcircled{◎}$ 総合的な学習の時間の学習は充実している」5ポイントアップ (2) ・部加入率向上・目標50% ・「部活動に積極的に参加している」5ポイントアップ (3) ア ・遅刻の全校的な減少(-3%) ・「 $\textcircled{◎}$ 学校生活についての先生の指導は納得できる」3ポイントアップ イ・大学等連携活動実施回数増 ・進路希望実現率向上(3年時当初進路希望と卒業時進路実績の比較)	(1) 「 $\textcircled{学}$ 総合的な学習の時間の充実」は今年度「いじめ」の項目に入れ替えたため、アンケートを実施していない。 (2) ・部活動加入率は微増で49.5%(H28 49.3%)($\textcircled{○}$) (3) ア ・年間遅刻者数は約14%減の2105(H28 2458)($\textcircled{◎}$) ・「 $\textcircled{学}$ 先生の指導は納得できる」は68.8%(H28 69.3%)はほぼ横ばいである。(Δ) イ 目標に挙げた諸活動はすべて実施。「 $\textcircled{普}$ エリア学習の興味関心」は1.5%増の78.5%であった。($\textcircled{○}$) 大学連携活動実施回数53回(H28は60回)(Δ) 進路希望実現率は85.5%(H28 86.1%)(Δ) ●希望する進路実現のためにキャリア教育やエリア活動等に力を入れ、高い学習意欲を維持させつつ、進路に応じた個別指導をさらに充実させる必要がある。
3 安全で安心な学校づくりと他	(1) 地域に貢献する活動に取り組む	(1) 地域に登場する生徒活動の推進…地域防災訓練をはじめコミュニティ主催活動への積極参加。その他生徒会や部活動での地域活動への参加の推進	(1) ・地域活動参加回数5%増	(1) ア 地域活動参加回数は26回(H28 22回)($\textcircled{◎}$) ・新たな地域活動として、キッズ剣道教室や近隣小学校での書道部のパフォーマンス披露を行った。磯島コミュニティ協議会との連携活動も例年通り行った($\textcircled{◎}$) ・今年度、スズメバチ対策として、全教室の窓に網戸を設置した。($\textcircled{◎}$) ・「 $\textcircled{学}$ 施設・設備の充実」は0.7%増の59.1%(H28 59.1%)($\textcircled{○}$)

府立枚方なぎさ高等学校

<p>(2) 自他を大切に する意識の醸成と 生徒状況に適切に 対応した指導</p> <p>(3) 「共に学び共に 育つ」教育の推進</p>	<p>(2)</p> <p>ア 支援を要する生徒を中心に生徒の密な 状況把握と情報共有…入学時の高校生活 支援カードをベースに支援を要する生徒 中心に生徒状況や背景を学年全体でつか んでいく</p> <p>イ 上記をもとにした「自他を大切にする」 意識の醸成</p> <p>(3)</p> <p>ア 自立支援コース生徒を中心とした集団 作り…一般就労を見据えた自立支援コー ス生徒の支援と授業やクラス活動以外で の交流活動を作る</p> <p>イ 支援教育サポート校の取組みを一層充 実させ、北河内地域の取組みとして定着 させる</p>	<p>(2)</p> <p>ア 「<input checked="" type="radio"/>先生は悩みや相談ごと にはていねいに応じてくれ ている」3ポイントアップ</p> <p>イ 「<input checked="" type="radio"/>学校では人権の大切さ について学ぶ機会が多い」3 ポイントアップ</p> <p>(3)</p> <p>ア・交流行事、交流機会増 ・「<input checked="" type="radio"/>この学校の生徒たちの関 係はとてもよい」3ポイント アップ</p>	<p>(2)</p> <p>ア 「<input checked="" type="radio"/>悩みや相談ごとにていねいに対応」は 5%増の75.0% (H28 70.0%) (◎)</p> <p>イ 「<input checked="" type="radio"/>人権の大切さを学ぶ機会」は8.7%増 の76.8% (H28 67.6%) (◎)。</p> <p>(3)</p> <p>ア 来校・巡回相談 25回、講演・研修4回 (H28 来校・巡回相談 18回、講演・研修4回) (○) ・「<input checked="" type="radio"/>生徒たちの関係」は2.1%増の80.6% (H28 78.5%) (○)</p> <p>●次年度以降も人権教育の推進と支援教育に関 する内外の取り組みさらに充実させ、支援教育 サポート校として北河内地域の教員の専門性の 向上に寄与していく。</p>
--	--	---	--